

普代村の郷



普代村郷土史の発刊に感謝

普代村長 深渡 宏

村郷土史編纂委員の方々の協力により「普代村郷土史」を発刊できますことは誠に喜ばしいことであります。

編纂委員会は当初四人で組織されましたが、最終的に三人という少人数で執筆いただき、ここに完結した次第であります。

郷土史は石器時代から戦後の普代までの歴史的な事項と、民俗的な内容を組み

合わせて、広く普代の自然、人々の営みを解明する立場をとっています。

昭和五十九年に「普代村史」が発刊されていますが、ある意味でこれを補うねらいもあります。

現在普代村は国立公園の中にあって、数々の優れた海・山の景観に恵まれ、一方海では漁獲、養殖、加工の事業、陸では農地造成な

普代村郷土史

希望者には一冊三千五百円（送料・自費）で販売します。

普代村の古文書Ⅱ	平成五年三月発行 一、〇〇〇円
普代村史細見	平成六年八月発行 三、〇〇〇円
普代村の古文書Ⅲ	平成八年八月発行 一、〇〇〇円
「たたら」つてなに郷土を語る	平成九年三月発行 一、〇〇〇円
普代村郷土史資料編	平成十年三月発行 三、〇〇〇円
併入下町溪月と普代村	平成十二年十月発行 三、〇〇〇円
普代村郷土史	平成十一年十一月発行 一、〇〇〇円
	平成十五年四月発行 三、五〇〇円

委員会がこれまでに発刊してきました「普代村の古文書(Ⅱ)、(Ⅲ)」など在庫もありますので、詳しくは役場総務課(☎2111内線116)までお願いします。

ど全般にわたり、開発が進められ、豊かな村へと変貌しつつありますが、近世、近代と歴史的な事実を詳しくみれば、先人の苦勞は計り知れないものがあります。

地震、津波、海難、山火事、冷害、飢饉は息つく暇もない間隔で襲い、自然への恐怖は口重い人間の群像をつくりあげてきました。この厳しい自然から逃避することなく、困難な道を切り開いて来た先人の生活に目を向けるとき、そこには必ず温かいものがあるはずであります。

例えば神楽舞う里、民俗行事の数々、海山川の幸、高尚でぬくもりの言葉づか

い、普代鉄の広範な販路、鉄・塩を運ぶ牛方の里などに見られるように、ささやかであっても、それが本当の人の生き方ではなかったかと誇りに思うものであります。

執筆は三人によるもので、各委員の卓越した筆のおもむきがあります、それぞれの得々とするところを容認していただければ幸いに存じます。

おわりに大事な古文書をはじめ、諸資料を寄せていただきました提供者各位のご好意、ご指導助言をいただいた村内外の識者諸氏、執筆者の皆さんに深く感謝申し上げます。